

【Advanced I】

筆記試験 <理論> 例題集 ②

(90分)

I. 次の楽譜を見て、各問に答えなさい。

1. ①～⑧にあてはまるコード・ネームを書きなさい。

① _____ ② _____ ③ _____ ④ _____

⑤ _____ ⑥ _____ ⑦ _____ ⑧ _____

2. A～Eのコードの度数と機能を書きなさい。

(注) 機能の表示は以下の略号で答えなさい。

Tonic → T Dominant → D Subdominant → S
 Subdominant Minor → Sm Secondary Dominant → Sec.D
 Sub Secondary Dominant → Sub Sec.D

	度数	機能
A		
B		
C		
D		
E		

3. (ア) ~ (エ) のコードに対する適切なアベイラブル・ノート・スケール名を書きなさい (開始音名も記入すること)。

(ア) _____ (イ) _____
 (ウ) _____ (エ) _____

●コード判別、コードの度数と機能、アベイラブル・ノート・スケールに関する問題です。Advanced I では、ノン・ダイアトニック・コード (代理コードやセカンダリー・ドミナント) を含めた各種のコードの機能を、曲のキーとコードの構成音から分析することが求められます。また、ダイアトニック・コードのアベイラブル・ノート・スケールについては、後述の問題Vでも問われるので、『セオリー・オブ・ポピュラー&ジャズ 3』第10章 (35ページ~) を参考に、アベイラブル・ノート・スケールの名称をよく知っておく必要があります。

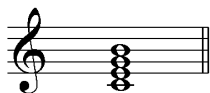
(正解) 1. ① E7 ② A7 ③ Dm7 ④ G7 ⑤ Cm7 ⑥ B^b7 ⑦ Am7 ⑧ E^b maj7
 2.

	度数	機能
A	V 7/ II	Sec.D
B	IVmaj7	S
C	^b VII7	Sm
D	^b II 7	D
E	^b VI maj7	Sm

3. (ア) A ドリアン・スケール (イ) D ミクソリディアン・スケール
 (ウ) E エオリアン・スケール (エ) B フリジアン・スケール

II. 例にならって、次のコード・ネームの和音の基本形を書きなさい。

(例) Cm maj7



E^baug7

Gm7(^b5)

Bmaj7

A7sus4



●コードの構成音を問う問題です。Basic I と同様、コード・ネームからの音符を組み立て方を理解しておきましょう。

(正解) E^baug7 Gm7(^b5) Bmaj7 A7sus4



Ⅲ. 下の表は、ダイアトニック・コードの機能とその代理和音について書かれたものです。該当するコード・ネームを記して空欄をうめなさい。

	トニック	トニック代理	サブ・ドミナント (サブ・ドミナント・ マイナー)	サブ・ドミナント (マイナー)代理	ドミナント
(例)	Cmaj7	Em7 Am7	Fmaj7	Dm7	G7
			Emaj7		
	D ^b maj7				
	Gm7				

●ダイアトニック・コードの機能のまとめです。メジャーおよびマイナー・キーについて、それぞれのダイアトニック・コードの機能を整理しておきましょう。

(正解)

	トニック	トニック代理	サブ・ドミナント (サブ・ドミナント・ マイナー)	サブ・ドミナント (マイナー)代理	ドミナント
	Bmaj7	D [#] m7 G [#] m7	Emaj7	C [#] m7	F [#] 7
	D ^b maj7	Fm7 B ^b m7	G ^b maj7	E ^b m7	A ^b 7
	Gm7	B ^b maj7(E ^b maj7)	Cm7	Am7(^b 5) F7 (E ^b maj7)	D7

IV. 例にならって、下記のコード・パターンにふさわしいコード・ネームを記入し、その説明として適切なものを□内から選んで番号で答えなさい。

(例) Key : C major

~	IVmaj7 (Fmaj7)	V7 (G7)	I maj7 (Cmaj7)	説明: □ 1
---	---------------------	--------------	---------------------	---------

(1) Key : A^b major

~	I maj7 ()	V7 ()	VI m7 ()	説明: □
---	---------------------	-----------------	--------------------	-------

(2) Key : E major

~	II m7 ()	^b VII maj7 ()	I maj7 ()	説明: □
---	--------------------	------------------------------------	---------------------	-------

(3) Key : A major

~	I maj7 ()	^b VI maj7 ()	I maj7 ()	説明: □
---	---------------------	-----------------------------------	---------------------	-------

- (説明)
1. 主要和音によるサブドミナント・ドミナント・ケーデンス
 2. トゥー・ファイブによるサブドミナント・ドミナント・ケーデンス
 3. 代理コードを用いたトゥー・ファイブによるサブドミナント・ドミナント・ケーデンス
 4. 主要和音によるサブドミナント・ケーデンス
 5. 代理コードを用いたサブドミナント・ケーデンス
 6. 代理コードを用いたサブドミナント・マイナー・ケーデンス
 7. ディセプティブ・ケーデンス (偽終止)

●コード進行 (ケーデンス) に関する理解を問う問題です。まず、それぞれのキーにおける各度数のコード・ネームを導き出すこと、さらにそれらの機能を分析することが必要です。各コードの機能がわかれば、その繋がりからケーデンスの種類を割り出すことができます。

(正解) (1)

~	I maj7 (A ^b maj7)	V7 (E ^b 7)	VI m7 (F m7)	説明: □ 7
---	-----------------------------------	----------------------------	-------------------	---------

(2)

~	II m7 (F [#] m7)	^b VII maj7 (D maj7)	I maj7 (E maj7)	説明: □ 5
---	--------------------------------	-------------------------------------	----------------------	---------

(3)

~	I maj7 (A maj7)	^b VI maj7 (F maj7)	I maj7 (A maj7)	説明: □ 6
---	----------------------	------------------------------------	----------------------	---------

V. 例にならって、①～⑥のコードとメロディーに対応した、適切なアベイラブル・ノート・スケールとテンション・ノートの音名と度数を書きなさい。また、アボイド・ノートがある場合はアボイド・ノートの音名と度数も書きなさい。

(アボイド・ノートがない場合はNo Avoidと書きなさい。)

(例) Fmaj7 A7 ① Dm7 G7 ② C7 ③ Am7

④ Bbmaj7 Am7 D7 ⑤ Gm7 C7 ⑥ Fmaj7

●楽譜から、ダイアトニック・コードのアベイラブル・ノート・スケールを導き出して五線に記載し、さらにテンションとアボイドを答える問題です。譜面におけるそれぞれのコードに対するアベイラブル・ノート・スケールの名称と構成音、さらにそれに含まれるテンションおよびアボイド・ノートの度数と音名を正確に理解していることが必要です。ドミナント7thコードについては複数のスケールが考えられますが、メロディーに含まれる音（テンション・ノートとなり得る音）によって適切なものを選びます。（なお、⑥のようにメロディーから複数のスケールの候補があり得る場合は、どちらを選んでも正解とします。）これらについては、『セオリー・オブ・ポピュラー&ジャズ 3』第10章（35～55ページ）を熟読して、よく覚えておきましょう。

(正解)

(例) スケール： F イオニアン・スケール

Tension = G (9th)

Avoid = B^b (4th)

① スケール： D エオリアン・スケール

Tension = E (9th) G (11th)

Avoid = B^b (^b6th)

② スケール： C ミクソリディアン・スケール

Tension = D (9th) A (13th)

Avoid = F (4th)

③ スケール： A フリジアン・スケール

Tension = D (11th)

Avoid = B^b (^b2nd) F (^b6th)

④ スケール： B^b リディアン・スケール

Tension = C (9th) E (#11th)

Avoid = No Avoid

⑤ スケール: G ドリアン・スケール



Tension = A (9th) C (11th)

Avoid = E (6th)

⑥ スケール: C ハーモニックマイナーP5↓スケール(※またはC オルタード・スケール)



Tension = D^b (b 9th) A^b (b 13th)

(※E^b (#9th) F# (#11th))

Avoid = F(4th) (※No Avoid)

VI. 次の曲に対し4 Way closeでVoicingをおこないなさい。また、ベース音も書きなさい。

B^bmaj7 Gm7 E^bmaj7 E^bm6 Dm7 D7 Gm7 C7



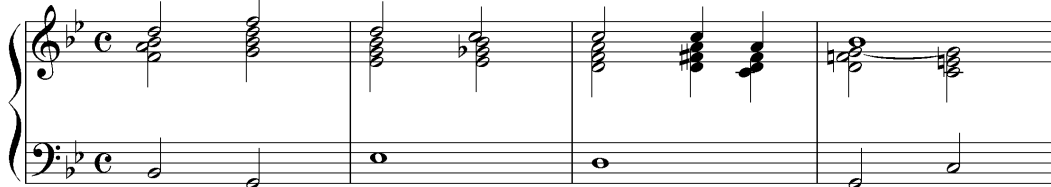
Cm7 F7 B^bmaj7 Fm7 B^b7



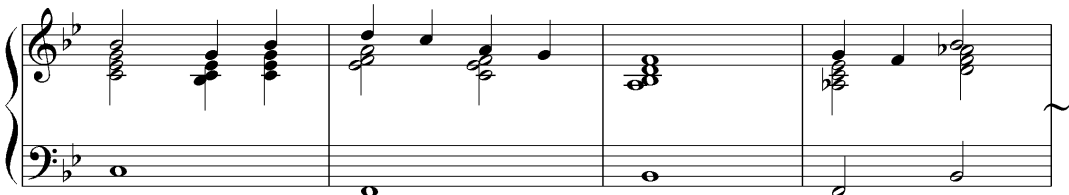
- メロディーに対するクローズ・ボイスイングです。クローズ・ボイスイングの基本は、メロディーの音をトップとして、その下にコード・トーンを順に配置していきます(メロディーがコード・トーンでない場合は、メロディーのすぐ下のコード・トーンを省いて同様に残りの音を配置します)。この手法について詳しくは『ピアノ・パフォーマンス 3』STEP 3 (22ページ〜)に掲載されているので、日頃から譜面上でトレーニングしておくといいでしょう。

(解答例)

B^bmaj7 Gm7 E^bmaj7 E^bm6 Dm7 D7 Gm7 C7



Cm7 F7 B^bmaj7 Fm7 B^b7



VII. 次の曲に対し、4声～5声でOpen Voicingをおこないなさい。

Em7 A7 Dm7 G7 Cmaj7 Am7 D7 G7

Gm7 C7 Fmaj7 Bb7 Am7 Dm7 G7 C6

- メロディーに対するオープン・ボイシングです。オープン・ボイシングにはいくつかの方法がありますが、
 - ・最低音（ルート）の上に5thを置き、メロディーとの間に3rd、7thを埋める（シンプル・オープン・ハーモニー：『ピアノ・パフォーマンス 3』STEP 5 46ページ～を参照）
 - ・メロディーが3rdか7thであれば、ルートとの間に残りの3rdか7thと5thを入れる
 - ・クローズ・ボイシングをした上で、2番目もしくは3番目のコード・トーンをオクターブ下げる（Drop2、Drop3）

という手法を、音域やラインの流れを考慮して組み合わせるのがセオリーです。なお、5th音は省略可能ですが3rd、7thは原則として省略しないことや、ロー・インターバル・リミット（低音域での音程関係）にも注意しましょう。

（解答例）

Em7 A7 Dm7 G7 Cmaj7 Am7 D7 G7

Gm7 C7 Fmaj7 Bb7 Am7 Dm7 G7 C6